

てん菜作付の安定確保に向けて

～H24年度全道てん菜作付意向調査結果より

北海道地域農業研究所 鷹田秀一

1. はじめに

てん菜は地域農業、地域社会、地域経済を支える重要な作物であり、圃場の地力維持のため輪作体系上欠くことのできない基幹作物である。しかしながら近年てん菜作付面積は大幅な減少を続けており、今後のてん菜作付の安定のため効果的なてん菜生産体制の有り方について検討を行うべく全道を対象としたアンケート調査を実施した。

2. 調査方法

全道てん菜作付JAを対象に「てん菜作付意向」「作物作付実態、てん菜作業実態等」「てん菜における作付改善のための要望」等を調査した。

(1) てん菜の移植栽培作付縮小を回避又は拡大の可能性はありますか？
該当するものに○をしてください。(複数可)

- ア. 苗の手配があれば、可(委託苗)。
- イ. 苗手配の共同作業(ポット播種、育苗管理)ができれば可。
- ウ. 苗の手配と定植作業まで委託できるなら可。
- エ. 苗の手配と定植作業まで共同作業の拡大強化ができるなら可。
- オ. 苗の手配と定植作業、収穫作業まで委託できるなら可。
- カ. 苗の手配と定植作業、収穫作業まで共同作業できるなら可。
- キ. 苗の手配と定植作業、収穫作業、防除作業まで委託できるなら可。
- ク. 苗の手配と定植作業、収穫作業、防除作業まで共同作業できれば可。
- ケ. 収穫作業だけ委託できれば可。
- コ. 収穫作業だけ共同作業できれば可。
- サ. 作業性よりは収量・糖分向上による収入増加が必要。
- シ. 作業や収入の問題ではないので、作業を委託できたとしても不可。

3. アンケート発送、回収状況

(1) 発送月日：8月3日、72JA、206生産者

(2) 回収結果：回収率は、回収JA数 49(68%) 総回収数120件(58%)

4. 結果概要

(1) てん菜作付中止意向者と農業経営環境について

ア. てん菜の作付中止意向は作付面積や収量との単相関がいずれも5%水準

有意で、経営規模・てん菜作付規模が小さい場面で起こりやすく、また低収量であること、低収入が作付中止の直接的動機づけになり得ることが確認された。

イ. またハウス施設の規模や後継者年齢から推定した農業継続可能年数とも負相関傾向が見られ、施設規模 が小さいことや、後継者が居らず、農家経営の継続が難しいことが作付中止に繋がっていると判断された。

ウ. 牧草・デントコーン栽培面積と正相関関係が認められ、畜産経営強化によるてん菜作付を中止の影響が確認された。

(2) てん菜作付縮小・やや縮小意向者と農業経営環境について

ア. てん菜作付における、縮小（やや縮小含む）意向の、経営環境との関連要因として牧草・デントコーン栽培面積と高い正相関関係（1%水準で有意）が認められた。このことは飼料の高騰に加え、機械化・委託作業などイアコーン・サイレージ技術の進展により、飼料作物の作付有利性が急速に高まったことが、てん菜作付に大きく影響を与えていると判断された。

イ. 後継者年齢から推定した農業継続可能年数と負相関関係が認められ、高齢化と後継者不在の影響が縮小要因となっていることが再確認された。さらに縮小意向と収穫機共同保有状況とで負相関傾向が見られ、共同実態のない農家ほど縮小意向率が高い傾向が認められた。このことより共同化の取り組みにより、縮小意向を低減できる可能性が推測された。

(3) てん菜作付改善に係る作業支援等要望事項に係る検討結果

ア. てん菜作付「中止」意向者における作付支援要望の特徴

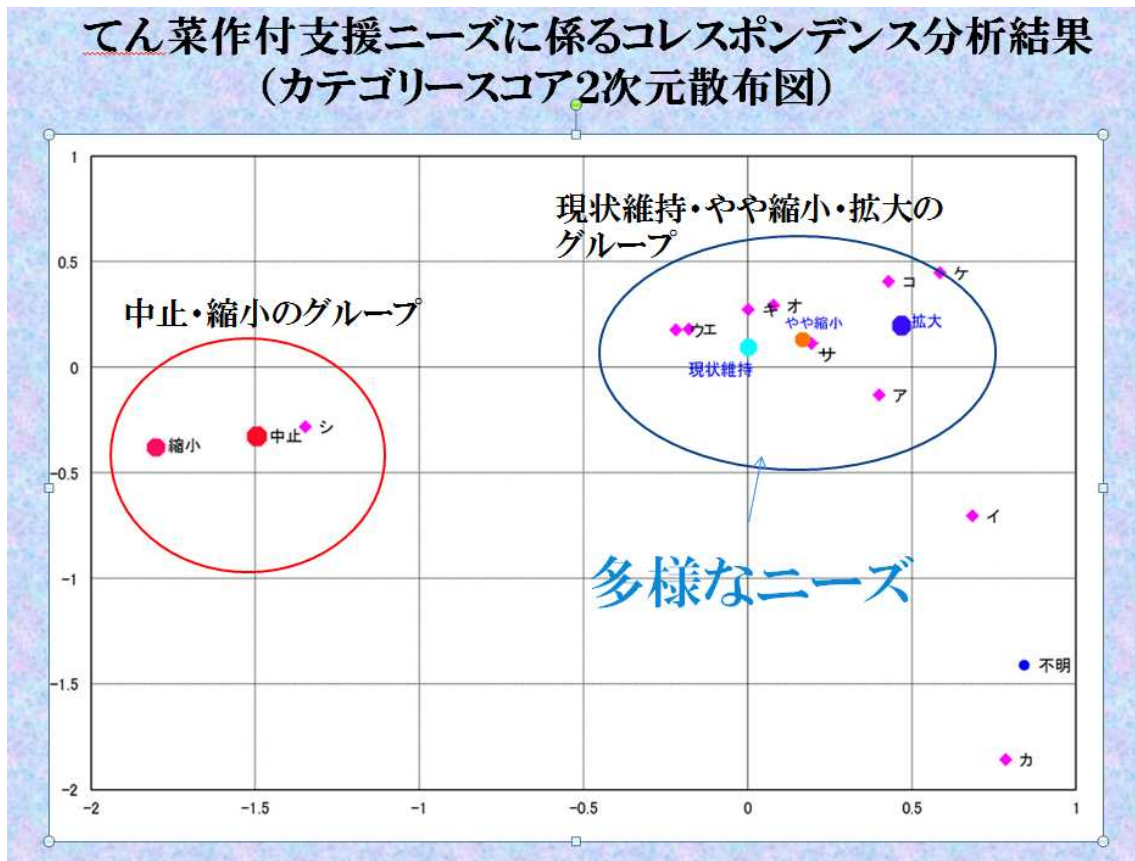
「中止」意向の回答農家では「てん菜の中止・縮小のための回避策、要望」として選択肢（シ）「経済性や作業性以外の問題」の選択率が有意に高く（1%水準）、またコレスポンデンス分析結果からも、他の作業性要望項目の選択肢との関連性がかなり小さいことが明確となった。つまり「中止」回答者では「価格支援や労働支援」では解決できないケースが多いと判断された。

イ. てん菜作付「縮小・やや縮小」意向者における作付支援要望の特徴

「縮小」意向・「やや縮小」意向の農家についても、育苗・定植作業・収

穫作業など作業支援要望は必ずしも大きくなかった。もっとも選択率が高かったのは、「縮小」の場合は「中止」意向の場合と同じく選択肢（シ）の「経済性や作業性以外の問題」であった。

ウ. コレスポネンス分析結果から、「やや縮小」と「縮小」回答では要望内容がやや異なる傾向が認められ、「やや縮小」では「現状維持」と同じく選択肢（サ）収量性や（ウ）（エ）（キ）（オ）など苗手配、定植・収穫作業支援等の要望などニーズが多岐に渡っており、個別にニーズがことなることが明らかとなった。以上より支援にあたっては日頃の情報交換を密にすることが重要と判断された。



5. 最後に

今回の調査で感じたこととして、本問題は決しててん菜だけの問題ではなく、作付安定のためには地域発展のための抜本的対策が不可欠と思われました。地域経済・産業・教育・生活等に製糖工場の果たす役割はとてつもなく大きく、地域産業発展の牽引役としての意義は絶大で大きな使命を担っていることを再確認いたしました。

以上